

福井県の絶滅のおそれのある野生植物

福井県レッドデータブック（植物編）



2004 福井県

福井県の絶滅のおそれのある野生植物

2004

福井県レッドデータブック（植物編）

福 井 県

発刊にあたって



私たちが住む福井県は、日本の中央部にあり、美しい稜線が続く奥越の山並み、三方五湖や九頭竜川に代表される水の豊富な湖沼や河川、断崖の続く越前海岸や変化に富んだ若狭のリアス式海岸など豊かな自然環境を有しています。そして、冬季の季節風がもたらす多量の降雪が四季の変化を際立たせ、多様で複雑な本県固有の自然を作り上げています。

本県にはこのような豊かな自然環境のもとに多くの野生生物が生息・生育しており、これまでに動物約8500種、植物約2400種が確認されています。その中にはヤシャゲンゴロウ、エチゼンオニアザミなど本県のみが生息・生育している生き物や国内最大規模の生息地となっているアベサンショウウオのような生き物もいます。これらの野生生物は、どれも本県の自然の重要な構成員です。

しかしながら、近年、地球規模で進行する野生生物絶滅の問題は、本県も決して例外ではありません。かつてイヌワシやツキノワグマなど多くの生き物が暮らしていたブナ林などの原生林は、わずかに残るのみになってしまいました。また、私たちが手を入れ、守り、多くの生き物と共生してきた里地里山は、生活様式や社会情勢の変化とともに大きく変容を遂げてしまいました。このような自然環境の変化は野生生物に大きな影響を与え、メダカ、ゲンゴロウ、キキョウなど昔はどこにでも見られた生き物は、絶滅が危惧されるまでに減少してしまいました。

福井県ではこのような状況に鑑み、平成14年1月に「自然との共生」などを重点施策とする「環境立県福井」を宣言し、県民総ぐるみで循環と共生を基調に環境と調和した社会づくりに取り組んでいるところで

す。自然との共生を図るには野生生物、特に希少な種を把握することが重要です。本書は、そのための基礎資料の一つであり、先に発行した動物編と合わせて県民の皆様の本県の野生生物がおかれている現状を報告するとともに、野生生物を絶滅から保護するため、今後さまざまな分野で大いに活用されることを期待して作成しました。これを契機に本書に掲載された野生生物に光が当てられ、将来にわたって私たちと共生の道をたどっていけることを心より願っております。

最後に、本書の作成に当たってご尽力いただきました福井県自然環境保全調査研究会植物部会の皆様をはじめ、ご協力をいただきました関係者の方々に厚くお礼を申し上げ、発刊にあたってのごあいさつといたします。

平成16年3月

福井県知事 西川一誠

